4･13 根津山だより 2021・4 第２号 4･13 根津山小さな追悼会

2020 年「4･13 根津山小さな追悼会」中止のご報告

令和２年４月 13 日「第 26 回４・13 根津山小さな追悼会」は、新型コロナウイルス感染拡大のため、開催間近で中止を決定する事態となりました。昨年４月７日に東京をはじめ７都府県に緊急事態宣言が発令され、翌日から豊島区すべての公園が封鎖されました。残念ながら追悼会開催も断念せざるを得ませんでした。

開催のお知らせをお送りした 300 名の方々には、その日の内に「開催中止のお知らせ」を作成し、手分けして発送いたしました。

急な中止の報に、ご理解あるお言葉や追悼会へのお気持ち、切手やご寄付をお寄せいただきました。実行委員一同、皆さまの追悼会への想いに感謝し心を新たにいたしました。以下に皆さまの一言をお伝えいたします。

「残念です」「やむを得ない」「できることは致します」「私の人生観の原点で残念です」「この度の恐怖、戦時中の日々とオーバーラップしています」「私は水戸の空襲でした。半分焼けながら今も残る銀杏の大木を横に見ながら三年間高校に通いました。根津山の集会では水戸に思いを寄せていました」

開催は断念しても、せめて当日は実行委員だけでも『豊島区空襲犠牲者哀悼の碑』に向かって祈りを捧げようと話し合いました。

冷たい雨が降りしきる４月 13 日、例年通りの時間に実行委員６名が南池袋公園に集まりました。中止を知らずにお出でになる方のために、封鎖された公園の出入り口すべてに「本日の追悼会は中止」の張り紙をしました。

南池袋公園正面入り口に献花し、フェンスの外から公園奥に小さく見える『豊島区空襲犠牲者哀悼の碑』に向って手を合わせ哀悼の意を捧げました。追悼会中止も、雨が降り続いているのも、開催以来初めてのこと。毎年参加される皆さまと空襲犠牲者の方々の無念を思わずにはいられませんでした。

雨の中、張り紙や献花に気づいて足を止めてくださる方々、様子を見に来てくださった豊島区郷土資料館の方に、当日配る予定だった「4・13 根津山だより第１号」と「4・13 根津山小さな追悼会しおり」をお渡しして、少しの間でしたがお話することができました。

新型コロナウイルス禍は未だ続いておりますが、皆さまのご無事を祈りながら、一日も早く普段の暮らしを取り戻して追悼会でお会いできることを願っております。

4･13 根津山小さな追悼会実行委員一同

2021 年追悼会に寄せられたお便り

恐怖と騒乱の厳しい世の中。耐え忍びながら一年余が過ぎました。お変わりなく慰霊祭のためにご尽力下さっている皆様に頭の下がる思いでございます。

あの根津山の夜に遺骨になっても不思議はない身でした。その自分が今、九十四才まで生き、日々を無事に過ごし、犠牲になった方々に祈りを捧げられる身となっていることを強く感じます。そして、日々、今日の一日が最後になるのかもしれないという思い、すべてに幸せと感謝をこめて過ごして居ります。

今回は、まだ収束の見通しも立たぬ状況を考えまして、従妹たち（矢沢としえ 叔母の二人の娘）とも相談しました。毎年この日に逢うのが待たれていたのですが、今年は諦めることに致しました。

催して頂く皆様には心から感謝申し上げ、離れた所からお祈りさせて頂きます。

たいへん失礼でございますが、些やかに、心ばかりのお供料をお送りさせて頂きます。何かのお役に立てられたら幸せに存じます。

末筆ながら、皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

令和３年３月５日　峰岸郁子

城北大空襲被災体験を語り継ぐ

4･13 根津山小さな追悼会 被災証言集

4・13 根津山小さな追悼会では、大きな空襲の中を今日まで懸命に生き抜いた方々の体験を記録し、次の世代に語り継ぐために、「追悼会十周年記念文集」「被災証言集第２集」「被災証言集第３集」を発行して参りました。一人でも多くの方々に読んでいただけるよう願っております。

被災証言集第３集　2018/3/25・B5 版・本文モノクロ・132 ページ・被災体験者証言地域図付き

38 名の被災証言地域：池袋・雑司ヶ谷・目白町・高田本町・椎名町・長崎・堀之内町・西巣鴨・巣鴨、近隣区の四月一三日・五月二五日空襲、豊島区外の空襲・学童疎開・勤労動員など

目次：「根津山へ逃げた」峰岸郁子、「救護活動中に空襲で亡くなった父」剱持信子、「兄 井熊友弥の遺品を前にして」星 静江、「空襲の火に映える満開の桜忘れない」越阪部文江、「燃える空と地の間で!!―私の空襲体験―」青山巌雄、「弟を背負って巣鴨拘置所の原っぱへ」宮崎さと子、「炎の記憶」加藤宣彦、「跡形もなくなった自宅」坂本弘道、「四月一三日前後のこと」山本澄代、「昭和二〇年四月一三日 池袋 空襲の記憶」恩田嘉一、「川越街道を成増方面へ逃げた」関戸保則、「小学生の戦争」矢田 英明、「四月一三日の空襲」矢田時江、「本立寺の脇を通り根津山に逃げた」越 敬一（中略）

●論文寄稿「豊島区の学童疎開」青木哲夫

被災証言集第２集　2014/3/25・B5 版・本文モノクロ・114 ページ・被災体験者証言地域図付き

31 名の空襲被災証言地域：雑司ヶ谷町・目白町・池袋・要町・日ノ出町・西巣鴨・巣鴨・駒込、隣接地域（板橋区弥生町）

目次：「四・一三空襲体験」田中久子、「被災後に役立った防空壕」峯岸静子、「火音の恐怖」きたまこと、「根津山に逃げた」田中不二、「四月一三日当日と戦中戦後の生活」坂上 明、「見つからなかった父の大工道具」小倉敦子、「戦争・空襲・終戦の青春時代」坂東和之丞、「学童疎開から戻って」河西弘子、「戦災に遭遇して」神戸美枝、「私と戦争（戦災の日のこと）」矢部喜美代、「焼け出され始末記」岡田和道、「池袋駅東口の周辺 被災前夜」大石雄文、「銃後を守って消息を絶った母と妹」屋代康光、「池袋は一面焼け野原、護国寺の屋根まで見えました」斉藤愛子、「空襲下を生き抜いて」矢澤としゑ、「母」山崎 馥（中略）

●論文寄稿「城北大空襲とは何であったか？」青木哲夫

＊証言集は発行費用に相当するご寄付をお願いしております。どうぞお力添えをお願い申し上げます
「被災証言集第３集」1500 円、「被災証言集第２集」1000 円、「追悼会十周年記念文集」配布終了
＊送料は実行委員会が負担します　＊お問合せ、お申し込みは事務局へお願いします